

「AS科学探究Ⅰ」の評価について

「AS科学探究Ⅰ」では次の観点で評価を行います。「AS科学探究Ⅱ」とあわせて、評価観点にあるような力を身につけることを目指します。

AS科学探究Ⅰ		A (3)	B (2)	C (1)
AS科学探究Ⅱ	S (4)	A (3)	B (2)	

各項目において、Cは「Bに達していない」、①②③は評価を行う学期

S：科学的である

	S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
研究の構想・計画 ①	先行研究との関連や成果の科学的意義などを複合的に踏まえた仮説を設定することができる。	検証可能な仮説を設定できる。	研究テーマもしくは研究の目的に沿った仮説を設定できる。	
研究の遂行 ①②③	実験や調査の妥当性や再現性などを踏まえた科学的な手法を用い、必要に応じて修正や改善を行いながら、研究を遂行することができる。また、研究内容に関して創造的な考えを提案できる。	実験や調査の妥当性や再現性などを踏まえた科学的な手法を用いて研究を遂行することができる。また、研究内容に関して自らの考えを提案できる。	研究を遂行する際に科学的な手法を用いようとする。	
研究倫理 ①②③	研究に責任をもち、常に手法等の公正性に留意するなど、高い倫理観を有している。	研究に責任をもち、手法等の公正性に留意するなど、倫理観を有している。	研究遂行の際に公正であろうとできる。	
科学的分析 ②③	明らかになった原因に基づき、新しい課題や仮説を提案することができる。また、具体的な方略を提案できる。	明らかになった原因に基づき、新しい課題や仮説を提案することができる。	明らかになった原因について考察することができる。	

A：高度かつ専門的である

	S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
科学的な知識・技能 ①②③	課題について探究するための科学に関する高度かつ専門的な知識および技能を十分に有している。	課題について探究するための科学に関する高度かつ専門的な知識および技能を有している。	課題について探究するための科学に関する知識および技能を有している。	
科学的価値の創出 ①②③	事象や課題について深く探究し、新たな価値を創出することができる。	事象や課題について深く探究することができる。	事象や課題について探究することができる。	

G : 国際的である

	S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
協働 ①②③	多様な価値観の違いを尊重して自他の向 上の変容を目指し、共通の目標に向けて 協働し高次の相互理解ができる。	多様な価値観の違いを尊重して、共通の 目標に向けて協働し、相互理解ができる。	多様な価値観の違いを想定して、協力し て活動することができる。	
合意形成 ①②③	科学的根拠に基づいた論理的な意見のやり とりによる建設的な議論により、新た な価値の創出につながる策をまとめるな どの合意形成を図ることができる。	合意形成のために、科学的根拠に基づい た論理的な意見のやりとりによる建設的 な議論を行うことができる。	議論を行う際に論理的な意見を出すこと ができる。	

A : 主体的・自律的である

	S (4)	A (3)	B (2)	C (1)
困難への対応 ①②③	困難と思われる課題に対しても高い洞察 力をもって、具体的な解決策について考 察するなど、主体的に粘り強く取り組む ことができる	課題に関心を持ち、その解決に向けての 分析を行うなど、主体的に粘り強く取り 組むことができる。	課題に関心を持ち、その解決に向けて主 体的に取り組むことができる。	
意思決定 ①②③	批判的思考による研究の評価や改善を行 うことにより、自らの意思を決定するこ とができる。	研究の評価や改善を行う中で批判的な思 考を發揮できる。	研究の評価や改善に取り組もうとでき る。	